一般社団法人
エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan

2025年度

事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

Report

事業報告書　目次

1.　2025年度事業方針（前年度事業計画より）
2.　実績概要
3.　分野別報告
（1）「人生の最終段階」に対応できる人材の育成
（2）「折れない心を育てるいのちの授業」プロジェクト
（3）「ともに認知症と生きる力を育てる～ともにん～」プロジェクト
（4）社会への発信（研究・出版・メディア・海外連携）
（5）現役世代・将来世代への教育（学生・若年層との協働含む）
4.　法人運営
（1）組織体制と協働
（2）財務・資金調達・ガバナンス
5. 次年度に向けて

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

1. 2025年度事業方針（前年度事業計画より）

2025年度、エンドオブライフ・ケア協会は設立10周年という節目を迎えました。

この10年、病や死に限らず、誰もが日々の暮らしの中で他者の苦しみに気づき、支え合う社会をつくることを目指してきました。私たちは「専門的なこころのケアをすべての人生のそばに：ユニバーサル・ホスピスマインド」という理念のもと、苦しみを抱える人が少しでも穏やかに生きられる社会を願い、歩みを重ねてきました。

この10年を振り返ると、専門職に限らず、子どもからお年寄りまで、多様な世代の方々が学び、語り、支え合う姿が全国で生まれています。研修や授業、地域の学習会などを通じて出会った方々が、自分の言葉でその思いを語り、次の世代へと受け継いでくださる姿が印象的でした。各地で共に考え、行動してくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

孤独や孤立、分断の影が深まる時代にあっても、人は自分の「支え」に気づくことで、穏やかさや希望を取り戻すことができます。苦しみは特別な人だけのものではなく、誰の人生にも訪れるもの。だからこそ、身近な誰かの苦しみに気づき、「この人はわかってくれる」と感じられる関係を育むことが、社会の温度を変えていくと信じています。

10周年特設サイトでは、これまでの歩みとともに、これからの10年に向けた道のりを紹介しています。 そこでは、私たちが大切にしたい未来の姿を「みんなで叶えたい10のこと」としてまとめました。ぜひご覧いただければ幸いです。

2025年度からは、その思いを形にするために、「定着」「共創」「次世代」という3つの軸を掲げます。学びを日常の実践へと「定着」させ、立場や分野を超えて支え合いの文化を「共創」し、そして次の「世代」へと受け継いでいく。その一歩一歩が、誰かの苦しみに寄り添い、支え合う文化を育てると信じています。

これからも、「すべての人生のそばに」という願いを胸に、皆さまと共に歩んでまいります。　　代表理事　小澤 竹俊

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

設立10周年の節目：私たちの新たなフェーズ

【これまで：種を蒔き、広げる「やってきた」10年】

専門的なこころのケア（ユニバーサル・ホスピスマインド）をすべての人生のそばに。誰もが日々の暮らしの中で他者の苦しみに気づき、支え合う社会を目指し、全国各地で多様な世代が学びを重ねてきました。

【これから：地に根を張り、育む「続けられる」未来へ】

学んだ担い手が孤立せず、地域で実践を継続できる「仕組み」が必要です。「個人の頑張り」に依存する段階から、「支え合いの循環が続く環境（土壌）づくり」に力を入れていきます。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

2. 実績概要

ユニバーサル
ホスピスマインド

■ 2025年度の主な成果

- エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座35回・受講者736名
- 「折れない心を育てるいのちの授業」参加者1.1万名
- ともにん（認知症）プロジェクトの始動（ジョンソン・エンド・ジョンソン様助成事業）
- 新規認定：ELCファシリテーター13名、いのちの授業講師48名（うちイギリス3名）、ともにんファシリテーター36名
- 寄付キャンペーン実施：子どもの居場所や次世代との連携
- OKプロジェクトの実践と評価（内閣府モデル調査事業、国際学術誌に原著論文掲載）
- グッドギビングマークの取得

■ 来年度方針

- 学びを日常に定着させる仕組みづくり（オンライン・カフェ、学びのサイクルの再定義）
- 講師・ファシリテーターによる地域実装の後方支援
- 次世代との連携強化
- 認知症プログラム（ともにん）の推進
- 計画的なプロジェクト組成と研究推進
- 海外との学び合い

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

3. 分野別報告
（1）「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

■ 取組概要と成果

- 「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」を全国で35回開催・参加者736人（前年度30回・486人）。
- 全国の認定ELCファシリテーターが小グループ進行や事例検討を担い、受講者の学びを支援。
- SOMPOケア「介護プライドマイスター」研修を継続実施（第5期）。同社介護プライドマイスターが各職場にUHMを実装していく上での伴走支援「ユニバーサル・ホスピスマインド実践ゼミ」終了。以降は内部で継続。
- 新たにELC北陸が立ち上がったほか、ファシリテーターが相互に実施を支援する動きが活発に行われた。

■ 課題と改善点

- 医療・介護職以外への周知とアクセス改善が必要。
- 忙しい現場職にとって参加、そして継続へのハードルが依然として高い。

■ 次年度に向けた示唆

- 受講後の小さな実践を応援する継続的な場を設ける（オンライン・カフェ等）。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

3. 分野別報告
（1）「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

■ 「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」（週末1日、平日夜間3日、インハウス開催）

※受講者として参加のFTを除く

開催日	場所/対象	形式	参加人数
2025年4月27日（日）	雲仙市	インハウス	73
2025年4月29日（火）	東京	公開講座	20
2025年5月8日～22日（木）	オンライン	公開講座	12
2025年5月10日（土）	狭山市	インハウス	38
2025年5月18日（日）	札幌	公開講座	8
2025年5月25日（日）	大阪	公開講座	14
2025年6月8日（日）	福岡	公開講座	42
2025年6月29日（日）	オンライン	公開講座	18
2025年7月6日（日）	埼玉	公開講座	33
2025年7月9日～23日（水）	オンライン	公開講座	11
2025年7月13日（日）	名古屋	公開講座	21
2025年7月20日（日）	東京	公開講座	12
2025年8月24日（日）	仙台	公開講座	4
2025年8月30日（土）	オンライン	公開講座	17
2025年8月31日（日）	鈴鹿市	インハウス	39
2025年9月4日～18日（木）	オンライン	公開講座	8
2025年9月13日（土）	SOMPOケア第5期	インハウス	35
2025年9月20日（土）	東京	公開講座	16

開催日	場所/対象	形式	参加人数
2025年9月28日（日）	大阪	公開講座	17
2025年10月12日（日）	オンライン	公開講座	14
2025年10月19日（日）	豊田市	インハウス	57
2025年10月26日（日）	札幌	公開講座	13
2025年11月5日～19日（水）	オンライン	公開講座	5
2025年11月8日（土）	琉球大学	インハウス	47
2025年11月23日（日）	東京	公開講座	24
2025年11月24日（月）	大阪	公開講座	5
2025年12月7日（日）	福岡	公開講座	17
2025年12月21日（日）	名古屋	公開講座	13
2026年1月8日～22日（木）	オンライン	公開講座	7
2026年1月11日（日）	東京	公開講座	15
2026年1月25日（日）	仙台	公開講座	11
2026年2月7日（土）	名古屋	公開講座	4
2026年2月14日（土）	オンライン	公開講座	中止
2026年2月22日（日）	大阪	公開講座	24
2026年3月1日（日）	東京	公開講座	27
2026年3月4日～18日（水）	オンライン	公開講座	15

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

3. 分野別報告
（2）OKプロジェクト

ユニバーサル
ホスピスマインド

■ **取組概要と成果**

- 講師トレーニングをオンラインで年3回開催（参加131名）、新規認定48名（累計307名）。
- 全国の認定講師が11,573名に授業を実施。累計参加者87,391名。
- 大阪・北海道・沖縄・鹿児島など、地域単位で講師育成における連携や実施機会が拡大。
- 学校以外の第3の居場所等に取り組むNPOとの実験的な取り組み（鎌倉あそび基地様、Learning for All様、第3の家族様、つなげる様、子ども村ホッとステーション様、MACHIKOYA様、ほか）。
- 小学生・大学生講師の活躍
- PHPCUKとの国際提携と3名の英国人講師認定

■ **課題と改善点**

- 平日日中の授業となる学校に伺える人材の拡充
- 子どもの居場所等とのさらなる連携

■ **次年度に向けた示唆**

- それぞれの活動を持続可能とする一助として、交通費補助制度を開始する。
- 小規模な地域実践を促す取り組みに少額助成し、「地域実践モデル」を育てる後押しに着手する。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

3. 分野別報告
（3）「ともに認知症と生きる力を育てる～ともにん」プロジェクト

■ **取組概要と成果**

- 認知症のある人の声を聴くことから始めて、新しい認知症観を育てていくプロジェクトを発足。認定者が各地でワークショップを開催していくための、プログラム開発と人材育成に着手した。
- ジョンソン・エンド・ジョンソン助成事業採択を機に、実行委員会発足。メンバーとともに、教材開発、トライアルワークショップ実施（鹿児島、福岡、会津、大阪、奈良、和歌山にて約580名参加）。
- 第1回ファシリテーター養成講座を福岡にて開催（参加38名）、マイプラン発表会を経て、36名認定。
- 認定者が各自ワークショップ開催を開始。

■ **課題と改善点**

- 受講の前提要件を満たすためのプロセスの整備。
- 行政等既存の枠組みとの連携と、半径5mでの小さな実践。

■ **次年度に向けた示唆**

- 前提要件に代わる認証の仕組みを開発・実装する。
- ファシリテーターの実践を支援し、取り組みを内外に共有することで実践の機会を増やす。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

3. 分野別報告
(4)社会への発信(助成事業・学会発表・研究論文・メディア掲載等)

■ 取組概要と成果

- 内閣府「令和7年度 孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」
  子どもがお互いの苦しみに気づき支え合う「OKプロジェクト」
- ジョンソン・エンド・ジョンソン コミュニティ・ヘルスケア・プログラム2025:
  「ともに認知症と生きる力を育てる～ともにん～」立ち上げ
- 国際学術誌Palliative Care and Social Practice(SAGE)に原著論文掲載
  From suffering to support: Applying the essence of spiritual care to compassion education for children and young people　苦しみから支えへ― スピリチュアルケアの本質をコンパッション教育に応用する
- 各地のメディアで協会活動が多数紹介された。

■ 課題と改善点

- 「子ども・若者」「認知症」などテーマ領域×地域の実装・研究体制。
- 学術的エビデンスと現場実践の橋渡しを担う専門人材の確保。

■ 次年度に向けた示唆

- 各地の取り組みに伴走しながら、次の助成事業や研究テーマに育てていく。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

学会・研究会等

- 小澤竹俊，小さな苦しみに気付き関われる緩和ケアを目指して～あなたにもできるスピリチュアルケア～，第21回大分県緩和ケア研究会　県北部支部会，特別講演，２０２５年５月
- 小澤竹俊，看取り期の患者、家族との対話の仕方，第７回日本在宅医療連合学会大会　ワークショップ３，２０２５年６月
- 小澤竹俊，病気の回復が見込めない患者へのコミュニケーション～ユニバーサル・ホスピスマインドを活かして，第１６回日本プライマリ連合学会学術大会　教育講演２，２０２５年６月
- 長野　宏昭．看取り期のコミュニケーション，日本在宅医療連合学会　ワークショップ，２０２５年６月．
- 長野　宏昭．ユニバーサル・ホスピスマインドを社会実装する，第１６回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会　ポスター発表，２０２５年６月．
- 小澤竹俊，過去・未来・事実・思いの４分割による対話の進め方によるスピリチュアルケアの可能性，第３０回日本緩和医療学会学術大会　ポスターＰ３-３４，２０２５年７月
- 小澤竹俊，スピリチュアルケアとＡＣＰ，第１０回日本アドバンスケアプランニング研究会　年次大会　教育セミナー，２０２５年９月
- 長野　宏昭．「スピリチュアル・ペイン」，『プライマリケアで診る・がん診療』分担執筆，２０２５年１０月．
- 長野　宏昭．「多職種カンファレンス」，『プライマリケアで診る・がん診療』分担執筆，２０２５年１０月．
- 長野　宏昭．在宅医療と学生サークル「ヨリドコロ」，在宅医療推進フォーラム２０２５　賀数りち氏スピーチサポート，２０２５年１１月．
- 久保田千代美．排泄ケアが生きる希望を支える～刺激性下剤に頼らない排泄ケアの実践～日本うんこ文化学会第５回学術集会，２０２５年１２月．
- 小澤竹俊，人生の最期を迎えるにあたってケアマネができること，第２２回山口県ケアマネジメント研究大会（日本介護支援専門員協会　中国ブロック研修会）　特別講演，２０２５年１２月
- 小澤竹俊，死を前にした人に、あなたは何ができますか？，第２回ビハーラ医学会学術大会　基調講演，２０２６年１月
- 長野　宏昭．学生企画「臨床推論×フォトボイス」，日本プライマリ・ケア連合学会　九州支部学術大会，２０２６年２月．
- 久保田千代美．ＡＩへの挑戦状！ウエルビーイングを支えるケアマネジメント～人として出会い聴く力を未来へ～第２４回介護支援専門員協会近畿ブロック研究大会ｉｎなら，２０２６年２月．

メディア出演・掲載

- 『朝日新聞』神奈川県版朝刊：生きる苦しみ　支え合う　ホスピスマインド　若者にも エンドオブライフ・ケア協会10周年（2025/4/20）
- 札幌市手稲区役所ホームページ「ていねっていいね」：子育てサロン「いちばん星」（2025/4/21）
- みんなで船橋を盛り上げる船橋情報サイト「MyFunaねっと」（2025/4/23）
- 社会貢献アプリactcoin「【エンドオブライフ・ケア協会デイリーアクション公開記念】業務執行理事 千田恵子さんインタビュー」（2025/5/2）
- ちいき新聞船橋版「この人」（2025/05/02）
- ザ・ライフ「“いきがい”を共に歩む　～沖縄・終末期のシェアハウス～」（2025/5/23）
- 社会貢献アプリactcoin「Beyond2025　あなたから始まるやさしさの連鎖～エンドオブライフ・ケア協会活動10周年記念イベントレポート～」（2025/05/30）
- 生野区役所X：大阪市立大池中学校での「折れない心を育てるいのちの授業」（2025/6/6）
- Yahooニュース「生きている意味って何だろう…仕事一筋の50代銀行員が肺がんに罹り気づいた「幸せとは」」（2025/6/20）
- 女性セブン「理想の最期を迎えるための家族会議の開き方」（2025年7月10日号）
- FM愛媛　松本隆博の『ココロにツボ！』（2025/7/5）
- 認知症と共に生きる社会へ　自己決定権の尊重を　鹿児島県伊仙町で　映画上映と専門家講演会（2025/7/7）
- 南海放送「NEWS CHANNEL4」（2025/8/29）
- UBS×SVP東京のコンサルティングセッションにて、代表理事・小澤竹俊が登壇（2025/8/28）
- 「こども支援ナビ」にインタビュー記事が掲載（2025/9/10、17）
- 対談：否定もせず励ましもしない：清水喜子さん（ゆたかはな）
- voicy『ドクターりんのエビデンスに基づく人生デザイン』（2025/10/11）
- mikaru「革新的アプローチで医療コミュニケーションの可能性を広げよう！」（2025/10/20）
- 北國新聞　地鳴り投稿：「いのちの授業」石川で広めたい（2025/11/1）
- 『東洋経済オンライン』年間475億円がムダ…高齢者の自宅に眠る「残薬」（2025/11/8）
- 『介護ポストセブン』日本の在宅看取りは先進国で最下位　少子化や核家族化による「家族の負担」が原因か（2025/11/27）
- 『旭川新聞』苦しみの早期発見を（2025/12/25）
- 「広報おきなわ」1月号（2025/12/24）
- 『琉球新報』幸せな人生 思える「家」に/最期までその人らしく 穏やかにいられる場所（2026/1/5）
- 『PRESIDENT Online』（2026/1/6）
- NHKラジオ深夜便〔ともに歩む100年人生〕 看取りから学んだ後悔しない生き方（2026/2/10）
- 『女性セブンプラス』「緩和ケア医」「在宅医」の選び方　医学的な正しさを追求するよりも“患者の望む生き方”をサポートする医師を（2026/2/18）
- 入試問題にユニバーサル・ホスピスマインド

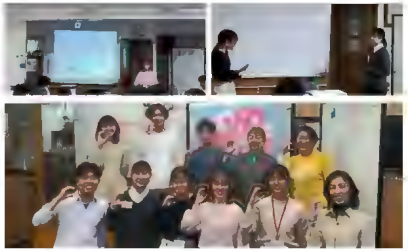
Report

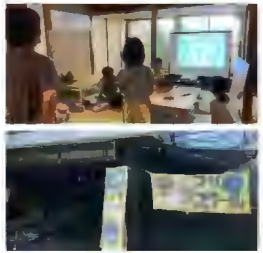
3. 分野別報告
(5)現役世代・将来世代への教育(学生・若年層との協働含む)

ユニバーサル
ホスピスマインド

■ **実施内容**

- 小学6年生が講師認定。子どもの居場所で講師デビュー(MACHIKOYA様)。
- 沖縄で2つ目のユニバーサル・ホスピスマインドを学ぶ大学内学生サークル「ホスピスマイル」が誕生。
- 関東では、U-harmonyが始動、医療系学生同士の交流が地域を超えて生まれつつある。
- 学生対象「いのちの授業」講師トレーニングを開催(東京4名、沖縄3名参加)。
- 子どもの居場所で学生が「いのちの授業」を実施(鎌倉あそび基地様、子ども村ホッとステーション様)





■ **課題と改善点**

- 医学教育・学校連携を継続的に担う体制づくり。
- 忙しい学生がゆるやかに継続的につながれるしくみづくり。

■ **次年度に向けた示唆**

- 学生の取り組みを後方支援する担当者

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

ユニバーサルホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう

多様な分野で活動するゲストをお招きし、問いをもとに対話する2時間のオンラインイベント

- 第212回 【特別企画】設立10周年シンポジウムふりかえり会（4/22）
- 第213回 誰もがオシャレを楽しめる世界へ。未来のおむつから考えるユニバーサル・ホスピスマインド（平林 景さん）（5/20）
- 第214回 ユニバーサル・ホスピスマインドを日常で活かすヒント ～ “あたりまえ”の風景の中に、苦しみと支えを見つけるワーク ～（6/17）
- 第215回 人生の最期にありがとうを贈る方法 ～遺贈寄付とは～（三浦美紀さん）（7/15）
- 第216回 -もしバナゲームの現在地 - ACP啓発から目的を持たない”遊び”へ（大川薫さん）（8/19）
- 第217回 誰もが「ここにいてよかった」と思える場をつくるには？ ～良い組織とは何かを考える～（石塚美絵さん）（9/16）
- 第218回 「支え合いの先にある、当たり前のよろこび」— ふたごじてんしゃと「つなげる」がひらく未来 —（中原美智さん）（10/21）
- 第219回 支えはめぐる — ケララ、ブレアトン、そして私たち 世界と日本の実践から、“やさしさの文化”のつくり方を考える（千田恵子）（11/18）
- 第220回 【参加無料】今年一年をふりかえり 未来に向けて夢を語る会（12/16）
- 第221回 安心して狼狽えられる社会を願って（轟 浩美さん）（1/20）
- 第222回 学ぶことは、生きること: 院内学級を通して学んだこころの教育（副島賢和さん）（2/17）
- 第223回 「大人になる前に死にたい」社会ではなく、「どうしようもない」ことも「大丈夫」と思える社会を（第3の家族 奥村春香さん）（3/17）

Report

4. 法人運営
(1)組織体制と協働

■ **取組概要と成果**

- 新理事・長野宏昭氏（沖縄県、いきがい在宅クリニック院長）の就任。
- 多岐にわたる事務局業務を複数名で分担できるチーム体制を構築。
  Slack等デジタルツールを活用し、情報共有と業務効率化を実現した。
- 複数名の業務委託者（広報、ファンドレイジング、制作等）による機動力のある
  プロジェクト推進を実現した。
- ALIVEとの連携とから生まれた絵本プロジェクト等への展開。
- 養成講座で使用する模造紙制作や、広報資材発送にあたり、広くボランティアを募集。
  初めての方を中心に約30名にお力をお借りし、あわせて交流することができた。

■ **課題と改善点**

- 外部との協働そのものを継続的に推進する人材・体制の強化が必要。

■ **次年度に向けた示唆**

- 助成事業を含め、協働を担う中核人材の育成と体制整備を進める。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

Report

4. 法人運営
(2)財務・資金調達・ガバナンス

ユニバーサル
ホスピスマインド

■ **取組概要と成果**

- 事業収入中心の財源構造から、助成事業・委託事業・寄付キャンペーンを組み合わせた多様な財源へと転換を開始した。
- 寄付キャンペーンを実施（支援総額1,206,000円）。
  認定講師 × 学生 × 地域の居場所が協働して、つらさを抱える子ども若者を日常的に支える新しい地域モデルの構築を目指す。
- グッドギビングマーク認証取得。

グッドギビング
GG2025(1)00009
有効期限 2028年 9月

■ **課題と改善点**

- 助成事業等の戦略的な獲得と、取り組みテーマごとの地域連携。
- ファンドレイジングを通じて関係性を維持・構築していくうえで、戦略ならびに担当者等リソースの確保が不可欠。

■ **次年度に向けた示唆**

- ご寄付を原資として、認定講師が各地で取り組む活動に助成する制度（地域実践ミニ助成）を開始する。
- 「地域実践モデル」への後押しをしながら、次年度以降の連携テーマに育てていく。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

地域実践ミニ助成

【なぜ】

授業をきっかけに生まれた気づきや関係性を、
地域や日常の中で継続していくために

【どんな取り組み】

・地域での対話や交流の場
・子ども・若者の居場所づくり
・保護者・支援者も含めた関係づくり
・いのちの授業の考え方を活かした実践
⇒関係が続いていく取り組みを応援します

【対象】

認定講師を中心としたチーム(学生参加歓迎)

【助成概要】
上限10万円｜5件程度
2026年6月～2027年2月

【目指す姿】
「わかってもらえた」と感じられる関係が地域の中に
少しずつ増えていくこと

【スケジュール】
4月募集開始 → 6月助成開始

▶ 詳細・応募はこちら ⇒

Report

5. 次年度に向けて

2025年度は、設立10周年を機に、ユニバーサル・ホスピスマインドを「学ぶ」だけでなく、日常や地域の中で実践し続けるための課題がより明確になった一年でした。

全国に学びの機会が広がる一方で、一度学んだ人が孤立せず、仲間とともに実践を続けられる仕組みづくりが必要であることも見えてきました。

2026年度は、これまで育まれてきた学びと実践の芽を、地域や組織の中で続けられる形へと整えていきます。地域実践ミニ助成、オンライン・カフェ、認定者同士の再接続、協働プロジェクトの組成を通じて、灯った火を消さず、次の一歩につなげます。

また、子ども・若者領域や「ともにん」をはじめ、学校・地域・医療福祉・企業・NPO等との連携を深め、声になりにくい苦しみに気づき、支え合う地域づくりを進めます。

あわせて、基幹システムのリプレイスを進め、講座・認定・寄付・地域実践を支える情報基盤を整備します。2026年度は、学んだ人がもう一度つながり、仲間とともに小さな変化を生み出していく一年とします。

All rights reserved, copyright End-of-Life Care Association of Japan

0歳から100歳まで、誰もがどこでも平等に、答えのないこころの問題に向き合えるように。

一部の人が一部の人にしか行えない専門的なケアではなく、
住んでいる場所、所得、年齢にかかわらず、
誰もが、大切な人や自分のこころのケアができるように。

わたしたちは「ユニバーサル・ホスピスマインド」を広めています。

それは、死と向き合うホスピスの現場で培われた、穏やかなこころのはぐくみ方。

たとえ死を目の前にしても、穏やかでいられる。
そんなユニバーサル・ホスピスマインドを
人生のあらゆる場面で持つことができたら。

学校、子育て、介護、仕事、人間関係。
答えのない困難への、感じ方が変わる。受け取り方が変わる。
それは、大切な人と自分が、
限られた時間でも自分らしく過ごすための実践的な方法。

ユニバーサル
ホスピスマインド
UNIVERSAL HOSPICE MINDSET

専門的なこころのケアを、すべての人生のそばに。

一般社団法人 エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan

©一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会